

# 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の概要

総社市市民環境部 人権・まちづくり課 課長補佐 兼 国際・交流推進係長 西川 茂  
岡山大学大学院准教授・総社市日本語教室運営委員 兼 コーディネーター 中東 靖恵



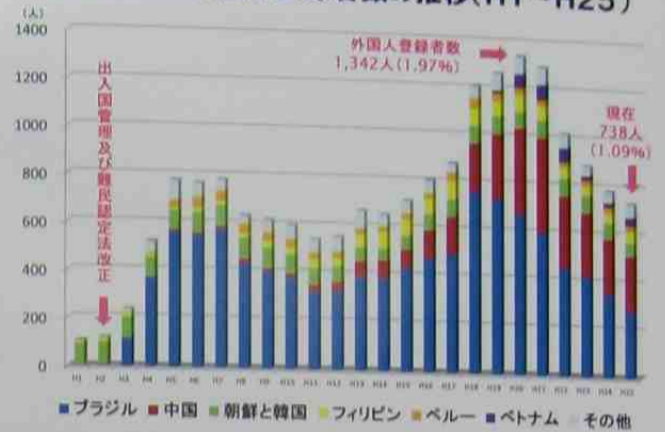
## 1. 総社市における外国人の状況—ブラジル人集住地域—

総社市は、岡山県南西部に位置する人口7万弱の自然豊かな地方都市です。市南部には自動車部品工場が集積した地域があり、入管法改正以後、南米系ニューカマーであるブラジル人、ペルー人をはじめとする多くの外国人労働者が雇用されました。

外国人登録者数は平成20年にピークを迎えましたが、同年秋の経済危機以後、減少しています。平成25年現在の在留外国人数は738人であり、総人口67,577人の1.09%を占めています。国籍別ではブラジル人が最も多く、中国、ペルー、朝鮮・韓国、フィリピン、ベトナム、インドネシアなど合計24カ国の外国人がいます。

総社市は外国人総数を占めるブラジル人比率が、岡山県内で最も多いブラジル人集住都市です。平成22年度より、中四国・九州地方唯一の外国人集住都市会議の会員メンバーとなっています。

総社市の外国人登録者数の推移(H1~H25)



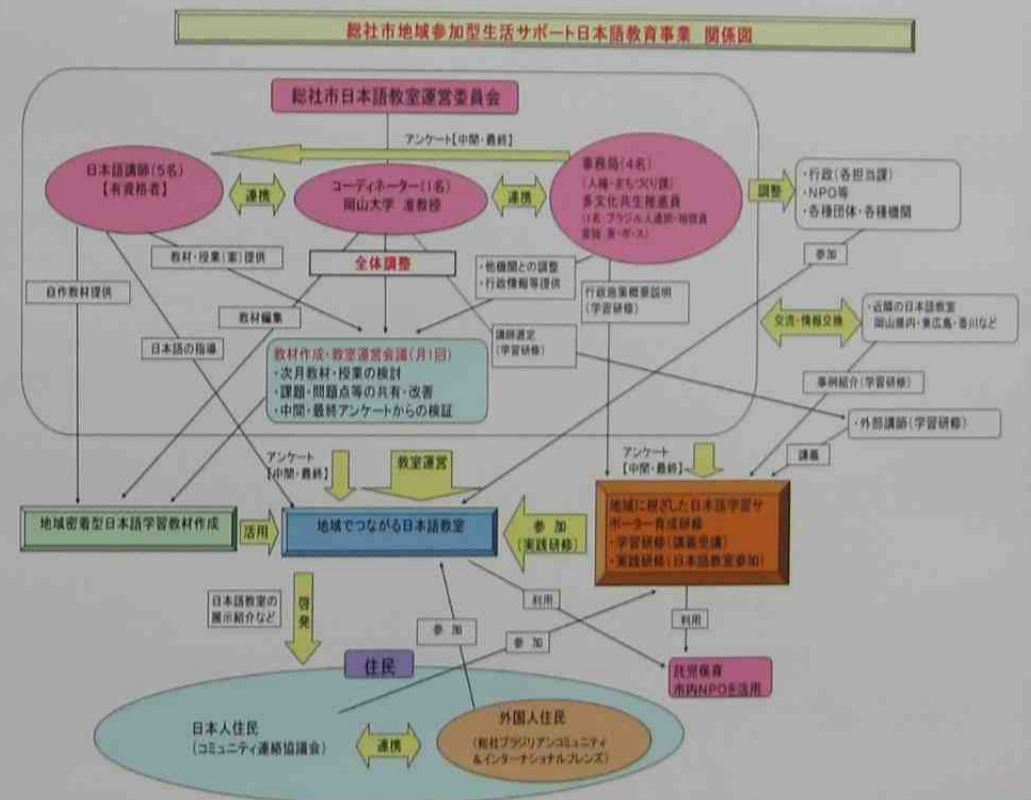
## 2. 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の概要

### (1) 事業理念と事業に関する3つの取り組み

**「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」**  
外国人住民が日本人住民との交流を通して、日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら地域社会の一員として積極的に参加できるように地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

- 日本語教室の設置・運営  
「地域でつながる日本語教室」
- 日本語教育を行う人材の育成・研修  
「地域に密着した日本語学習サポーター育成研修」
- 日本語教育のための学習教材の作成  
「地域密着型日本語学習教材作成事業」

### (2) 事業の実施・連携体制



### (3) 事業運営に関わる学術的調査研究

「総社市における南米系定住外国人の言語生活実態調査」(平成24年7月報告書公刊)

日本語教室のニーズ調査、日本語教育プログラム立案に必要な基礎的データ収集を行うため、ブラジル人を中心とする南米系外国人に対し、日常の日本語使用や日本語学習状況についての実態調査を行いました。



## 3. 平成24年度日本語教育事業の概要

### (1) 地域でつながる日本語教室

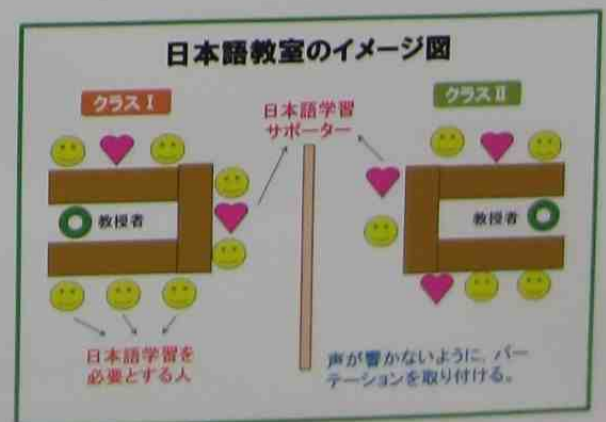


地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上を図りながら、地域に密着した生活情報を得るとともに、外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるように、地域住民同士がつながる場を提供することを目的として開講しました。

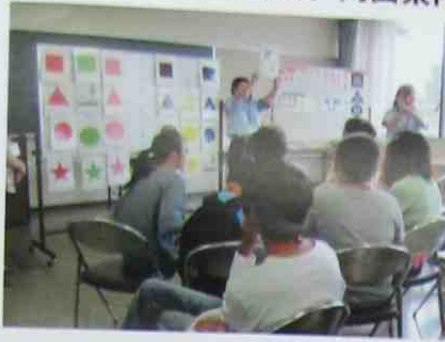
- 日時: 毎週日曜日 9:30~11:30 (毎回2時間×30回=60時間)
- 場所: 総社市保健センター2F (無料託児付き: 市内NPOによる託児保育)

#### 【日本語教室の特徴】

- 総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム(30単位)を策定し、日本語教室での学習シラバス(授業内容)を構成。
- 日本文化講座、市職員による講習会や体験学習、防災訓練等への参加など、日本人との交流を通して、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。
- 地域生活に不可欠な保健・医療・福祉・教育・防災などの各種行政情報を提供する。
- 日本語学習サポーターが日本語教室に参加し、より細かな日本語学習支援を行うとともに、地域住民同士がつながり、交流を促進する場となるようにする。



■市役所内各担当部署・岡山県内NPO・各種機関・団体との連携



【交通指導員による交通安全講座】



【消防署員による防災講習】



【防災訓練のバケツリレー】



【図書館を利用する】

■実体験を伴う授業活動・日本人との交流や日本語の活動を通じての実践的な日本語習得



【病院で診察を受ける】



【市役所に電話して通訳を呼ぶ】



【引っ越しの挨拶をする】



【エコバッグを作る】

■地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り



【日本語教室の展示】



【習字の展示(一文字書展)】



【総社国際フェスタへの参加】



(2) 地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修

地域住民を対象に、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活支援の一環として、日本語学習をサポートする方法について実践的な研修を行い、地域社会に暮らす隣人として外国人住民を支える「日本語学習サポーター」を育成することにより、外国人支援活動を根付かせ、地域の多文化共生活動を推進するための基盤作りを行うことを目的に開講しました。

【日本語学習サポーター育成研修の特徴】

■地域における外国人住民の状況や、「やさしい日本語」の指導など、外国人支援に関する基礎的知識を習得する「学習研修」と、「地域でつながる日本語教室」に参加して実際に外国人住民と交流をしながら、日本語学習をサポートする方法を実践的に学ぶ「実践研修」の2つの研修から構成。

■日本語学習サポーターが日本語教室に参加し、日本語学習支援を行うとともに、地域住民同士がつながる場となるようにする。

(3) 地域密着型日本語学習教材作成事業

地域に暮らす外国人住民が、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域に密着した生活情報が得られる学習教材を作成し、日本語教室で利用するだけでなく、地域社会で安心して暮らせる生活指南書として活用できるようにすることを目指しました。

【本編】

平成24年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラムに基づき、学習シラバスを構成。

【ひらがな・カタカナ一覧表】

ゼロ初級レベル用文字教材

【漢字練習シート】

日本語教授者オリジナルの「生活場面に即した漢字」の練習シート

【総社市日本語教室でのイベント】

職員による講座や体験学習、イベント



4. 成果と課題

日本語教室が日本語を学ぶ場としてだけでなく、日本語学習サポーターの参加により地域住民同士がつながる場として機能しており、市各担当部署との連携により行政情報の提供もスムーズに行えている。今後も地域社会との連携を強化しながら事業を継続していきたい。



